

研究等成果報告書

研究費の区分	基盤研究費・学部等研究費・全学プロジェクト等研究費 種目：学部等研究費
研究課題	異文化交流に関する基礎的研究
学部等・職・氏名	共通教育センター 准教授 伊東 栄志郎
研究成果の概要	<p>当研究は、研究目標として、「制度、文化の違う国や地域との交流を促進するための必要な条件を明らかにする」という研究目標を掲げ、伊東他、Uwe Richter 教授、佐藤智子教授、劉文静准教授の計4名がそれぞれの専門研究分野で行ったものである。</p> <p>伊東担当分「ユダヤ文化とアイルランド文化の交流」は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東京及び京都のアイルランド文学研究会に参加し、他大学の研究者たちと協力して、研究を続けた。7月にアイルランド共和国ダブリン市内の University College Dublin で開催された IASIL 2007: "Varieties of Irishness" (International Association for the Study of Irish Literatures [IASIL]主催) 研究発表した。発表題目は、"Diaspora Jews in Joyce's Dublin: Irish Jewish Lives Described in <i>Ulysses</i>"であった。これを含め計3本の論考を発表した。 2. 学会終了後、University College Dublin、National Library of Ireland、The Irish Jewish Museum など、ダブリンの研究機関等でユダヤ関係の資料収集をした。 3. 関東ジョイス研究会及び関西ジョイス研究会に出席し、特に <i>Ulysses</i> におけるユダヤ文化の関係を議論したこと。 4. アイルランドにおけるユダヤ人に関し、資料収集を行ったこと。
目標の達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東京の関東ジョイス研究会、京都の関西ジョイス研究会に赴き、研究交流を深めた。反ユダヤ主義に関する2つの論文、"And I belong to a race that is hated and persecuted": Anti-Semitism in <i>Ulysses</i>"と"Diaspora Jews in Joyce's Dublin: Irish Jewish Lives Described in <i>Ulysses</i>"をまとめて、それぞれ『リベラル・アーツ』と『総合政策』に掲載した。 2. ダブリン研修も順調であり、特に20世紀初頭の東欧からのユダヤ系移民とアイルランドにおける彼らの生活の実態について、多くの資料収集を行った。
成果発表等	<p>①成果として拙論が掲載された刊行物は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <i>A Companion to James Joyce</i> (Blackwell Publishing, Inc., 2008) (Richard Brown, ed.) (共著:Chapter 12 担当) 2. 『リベラル・アーツ』(岩手県立大学 共通教育センター)第2号 (2008年1月) 3. 『総合政策』(岩手県立大学 総合政策学会)第9巻第2号 (2008年3月) <p>②上記以外の研究成果は、拙HP参照：http://p-www.iwate-pu.ac.jp/~acro-ito/</p>

注 学会発表論文等の成果発表資料を添付すること。(成果発表資料がない場合は、研究実施レポートを添付すること)